

★保育園における感染症対策★ (令和4年度版)

保育所は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場所です。

感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、一人ひとりの子どもが一日快適に生活できることが大切です。下記の感染症については意見書の提出をお願いします(厚生労働省からの指導に基づいています)。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育所生活が可能状態となつてからの登園になることをご理解くださいますようお願いいたします。

医師より記入して頂く許可書が必要な感染症

病名	主な症状	感染しやすい期間	潜伏期間	登園基準
インフルエンザ	高熱・頭痛・咽頭痛・咳 筋肉や関節の痛み・全身倦怠感	症状がある期間(発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い)	1~4日 (平均2日)	発症した後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで
麻疹(はしか)	熱・咳・くしゃみ・発疹 目が赤いなど	発熱の出現1~2日前から発疹出現後の4日間	8~12日 (7~18日)	解熱後3日を経過してから
百日咳	風邪の症状で、熱はなく ヒューヒューと特有の咳が出る	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	5~12日	特有の咳が消失するまで 又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳の下が腫れて痛みがあり 発熱もある	発症2日前から耳下腺腫脹後5日	12~25日	耳下腺、顎下腺や舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良くなるまでお休み
風疹(三日はしか)	発熱・赤く細かい発疹 (顔・首・お腹に出る)	発疹出現の数日前から 後5日間くらい	16~18日 (14~23日)	発疹が消失してから
水痘(水ぼうそう)	発疹(紅斑→丘疹→水痘→痂皮)	発疹出現の1~2日前から痂皮形成まで	10~21日	全ての発疹が痂皮化してから
咽頭結膜炎(プール熱)	高熱・咽頭痛・結膜炎 ・頭痛・食欲不振などの症状が出る	発熱・充血など症状が出現した数日間	2~14日	主な症状が消失え2日経過してから
流行性角結膜炎(はやり目)	流涙・結膜充血・眼脂 耳前リンパ節の腫脹、圧痛	充血・眼脂など症状が出現した数日間	2~14日	感染力が非常に強い ため医師より感染の恐れがないと認められるまでお休み
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血		1~3日	医師より感染の恐れがないと認められるまでお休み
腸管出血性大腸感染症(O157等)	激しい腹痛・頻回の水様便、 さらに血便 発熱は軽度	便中に菌を排泄している間	4~8日	症状が治まりかつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便のいずれも菌陰性が確認されるまでお休み
結核	発熱・咳・呼吸困難・チアノーゼ	喀痰の塗末検査が陽性の間	特に6か月以内	医師より感染の恐れがないと認められるまでお休み
髄膜炎菌性髄膜炎	頭痛・発熱・首の硬直		1~14日	医師より感染の恐れがないと認められるまでお休み

☆医師より診断を受け、**保護者様が記入**をする**登園届**が必要な感染症

下記の感染症においては意見書ではなく、登園届をお願いします（厚生労働省からの指導に基づいています）。意見書と登園届の記入用紙は、診断が明確になった時点で担任よりお受け取り下さい。

病名	主な症状	感染しやすい期間	潜伏期間	登園基準
RSウイルス	発熱・鼻水・咳・喘鳴 呼吸困難	呼吸器症状のある間、 唾液の中に数週間ウイルスを排泄する	4～6日 (2～8日)	重篤な呼吸器症状が消失し、 全身状態が良い事
ヘルパンギーナ	高熱(1～3日続く)・咽頭痛 ・咽頭に水痘や潰瘍	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	3～6日	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、 普段の食事ができること
手足口病	手・足・口に白い水痘性の発疹 ・軽度の発熱・口内炎	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	3～6日	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、 普段の食事ができること
伝染病紅斑(りんご病)	頬・腕には紅い斑点 お尻・太ももには発疹	発疹出現前の1週間	4～14日	全身状態が良い事
溶連菌感染症	高熱・咽頭痛・嘔吐・腹痛 体・手・足に発疹 苺舌	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1～2日間	2～5日	抗菌薬内服後24～48時間経過している事
ウイルス性胃腸炎(ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等)	発熱・腹痛・嘔吐・下痢(ロタウイルスは白っぽい下痢)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	ロタは1～3日、ノロは12時間～48時間	嘔吐・下痢等の症状が治まり、 普段の食事がとれ元気になった時
マイコプラズマ肺炎	咳・発熱・頭痛	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	2～3週間 (1～4週間)	発熱や激しい咳が治まっている事
突発性発疹	3～4日続く高熱 その後全身に発疹	感染力は弱いですが、発熱中は感染力がある	9～10日	解熱し、機嫌が良く、 全身状態が良いこと
帯状疱疹	小水疱が神経の支配領域にそった形で片側に現れる。 神経痛・刺激痛・掻痒	水疱を形成している間	不定	全ての発疹が痂皮化してから

感染力が強いために園独自で登園届をお願いしている感染症

頭じらみ	無症状・時に頭皮の痒み 毛髪に卵が付着		10～14日	駆除を開始していること
とびひ	痒みと創部のただれ	湿潤な発疹がある間	2～10日	皮疹が乾燥しているか、 湿潤部が完全にガーゼや包帯で覆われていること
水いぼ	直径1～3mmの球疹		2～7週間	浸出液が出ているときは被覆されていること
単純ヘルペス	歯肉口内炎・口周囲の水疱	水疱を形成している間	2日～2週間	発熱がなく、よだれが止まり、 普通の食事が出来ること